

待降節第4主日A

「恐れるな、怖がるな」

マタイ1・18-24

皆さん、いよいよクリスマスはすぐそこに近づいています。

この3週間、私たちは主の降誕のために準備してきました。もう全ての準備ができているでしょうか。今日は、待降節の最後の日曜日ですが、残りの1週間、喜びをもってイエス様を迎える心の準備を進めていきましょう。今日、皆さんと一緒に考えたいことは、私たちと共に神様がいつも一緒にいてくださるということです。

神様が私たちと共にいてくださるなら、**私たちは何を恐れることがあるでしょうか。**これが今日のテーマです。

私たちは、人生の中で恐れを感じたことがあると思います。

恐れは、私たちの誰もが無縁ではない共通の問題だと思います。ある有名な医師によると、今日の医師が診察する慢性病患者の90パーセントは、ある共通の症状を持っているそうです。それは「恐れ」です。

私たちはさまざまなことに恐怖心を抱いているのだと思います。例えば、貧困への恐れ、批判への恐れ、病気への恐れ、拒絶への恐れ、老いへの恐れ、愛する人との別れへの恐れ、死への恐れ、などです。

今日の福音書で、主の天使が夢に現れて、ヨセフにこう言いました。

「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。」。天使がこの言葉を言ったのは、ヨセフがマリアと密かに縁を切ろうと思っていたからです。当時の法律では、もし、婚約者が他の男性によって妊娠させられていることを発見した場合、男性はその妻を糾弾する権利があると決められていました。おそらく、ヨセフはその法律があることをよく知っていたでしょう。その女性は石打ちの刑に処せられることになっていました。そしてヨセフは、マリアが赤ん坊を宿していることを知ったのです。ヨセフは神を信じ、心から崇拝していましたから、神の掟に従おうとしたのです。マリアは姦淫を犯したと思われたので、石打ちの刑に処されなければならないのです。しかし、ヨセフはマリアをなんとか石打ちの刑から助けたいと思ったようです。このような理由から、ヨセフはマリアと密かに縁を切ろうとしたのでしょう。

ヨセフがマリアと縁を切ろうとしたもう一つの理由は、将来起こることを恐れていたことがあります。ヨセフは自分の身に起こるかもしれない目に見えないことを恐れていたのでしょう。

このことから、今日、私たちが考えさせられることは、「**なぜ私たちは、責任を取るということを恐れているのか**」ということです。とにかく、私たちは皆、恐れを抱いているのです。これらの恐れは、あるものは良いものですが、あるものは悪いもので私たちの人格を破壊するものです。もし私たちが多くの恐れを抱いているなら、私たちの人生は悲惨なものになるだけでなく、サタンの格好の標的になってしまうでしょう。私たちがあまりに恐れていると、サタンはとても喜びます。サタンは、私たちがいだいている拒絶されることへの恐れ、老いることへの恐れ、痛みへの恐れ、そして孤独への恐れなど、私たちの恐れを見つけると私たちに攻撃してきます。

今日、私たちはどうすればそのような恐れを克服できるのでしょうか。いろいろな方法がありますが、ここでは5つの方法を紹介したいと思います。

第一は、私たちは自分の恐れが何に対する恐れかを知る必要があります。知るということはどんな問題でも解決するための第一歩です。私たちは、人生における自分の恐れが何に対する恐れなのかを知る必要があります。これは、自分の恐れをはっきりと認識するために非常に重要なステップです。イエスは福音の中でたびたび「恐れるな」「怖がるな」と語られています。(マルコ6.49-50), マタイ8.26). イエスに「恐れな」と語りかけられた時、弟子たちは安心して恐れているものが何かを知ることができました。イエスはわたしたちに恐れるなと語りかけてくださっています。その時、わたしたちは自分の恐れているものがわかり、恐れから自由になるのです。

第二は、私たちは自分の恐れを言葉にする必要があります。私たちの恐れは、何かわからないものに対する恐れであることがほとんどです。言葉にすることで、恐れを表に出し、恐れが何に対するものであるかを理解することです。理解することで対処することができるのです。

第三は、恐れに支配されないようにすることです。自分の感情が自分の行動を支配するのは未熟だからとも言えます。私たちにとっていつもおそれから自由であることは簡単なことではありません。ヨセフは、「**恐れず、マリアを迎え入れなさい。**」(1. 20)という天使の語りかけを受け入れ、恐れから自由になり、イエスの誕生を迎えました。

第四は、もし恐れが現実に根拠を持たない架空のものであれば、それを認めることを拒否することです。まず、事実であるかを知る必要がありますが、同時に恐れに満ちた思考に溺れることを拒否する必要があります。

第五の恐れへの対処法は、恐れに捕らわれるのではなく、神を信頼することを学ぶということです。恐れを克服するのに、これ以上の方法はありません。そして、これは私たち全員ができる選択なのです。聖書には、「**人を恐れると罫にかかる。しかし主に信頼する者は守られる**(箴言29.25)」と書いてあります。私たちは恐れてはなりません。

イエスの名前はインマニエルつまり『**神は我々と共におられる**』（ルカ1. 23）だから恐れる必要がないという意味です。旧約聖書の時代より、「**わたしはあなたとともにいる**」という言葉が、何度も民に語っておられます。例えば創世記17.1-19では、アブラハムに「**わたしはあなたとともにいる**」と言われました。出エジプト記2.11-15では、モーセに「わたしはあなたとともにいる」言われました。

新約聖書のマタイ28.20では、御子であるキリストは弟子たちに「**わたしはいつもあなた方とともにいる**」と言われました。弟子たちが復活した主を見つけたとき、キリストは彼らに「行って、すべての国の人々を弟子とし、教え、洗礼を授けなさい」と言われました。なぜなら、神は弟子たちとともにおられるからです。使徒言行録18.5-10で、神はパウロに「わたしはあなたとともにいる」言われました。**神様が私たちと共にいてくださるなら、私たちは何を恐れることがあるのでしょうか？**

今日、私たちは自分自身に問いかけてみましょう。神は今日も私たちと共におられるのだろうか？ 私たちの日常生活の体験は、神が私たちとともにおられることを示しているだろうか？

私たちは時々、神が私たちと本当にともにいてくださるのだろうかと考えることがあります。しかし、少し考えてみると、祈りにおいて、教会において、家庭生活において、社会生活において、そして個人生活において、神が私たちと共におられることは事実です。神は私たちに「**恐れるな、怖がるな**」と語り続けてくださっています。

今日、私たちを不安にさせる恐れを克服できますように祈りましょう。そして、私たちの生活の中に神が共におられることを実感できますよう祈りましょう。

また、神とともに私たちが歩むことができるように祈りましょう。